

# 図書館だより



武雄高等学校 図書指導部

令和3年1月15日発行

新年がスタートしました(^)/今年もよろしくお祈りします(\*'▽')2021年がみなさんにとって素敵な1年になりますように☆☆



## 第164回 芥川賞・直木賞候補作について

12月18日に、第164回芥川賞・直木賞の候補作が発表されました☆受賞作の発表は1月20日に行われます(\*'▽')受賞作については、本校図書館でも入荷予定なのでぜひ楽しみに☆今回は各賞の候補作を紹介します!(\*'艸`)

### 《芥川賞候補作》

#### ①『推し、燃ゆ』

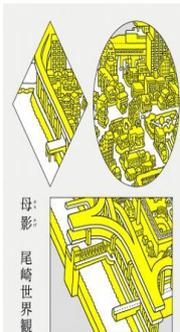
宇佐見 りん【著】(河出書房新社)



逃避でも依存でもない、推しは私の背骨だ。アイドル上野真幸を”解釈”することに心血を注ぐあかり。ある日突然、推しが炎上し—。

#### ②『母影』

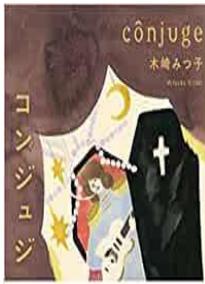
尾崎 世界観【著】(新潮社)



小学校でも友達をつくれず、居場所のない少女は、母親の勤めるマッサージ店の片隅で息をひそめている。お客さんの「こわれたところを直している」お母さんは、日に日に苦しようになっていく。少女は願う。「もうこれ以上お母さんの家がどこにも行かないように」。

#### ③『コンジュジ』

木崎 みつ子【著】(集英社)



二度も手首を切った父、我が子の誕生日に家を出ていった母。小学生のせれなは、独り、あまりに過酷な現実を生きている。寄る辺のない絶望のなか、忘れもしない1993年9月2日未明、彼女の人生に舞い降りたのは、伝説のロックスター・リアン。その美しい人は、せれなの生きる理由のすべてとなって…。

#### ④『小隊』

砂川 文次【著】(文藝春秋)

2月発売のため画像はありません…。

樺太・国後半島から北海道にロシア軍が上陸、日本は第二次世界大戦後初の「地上戦」を経験することになった。自衛隊の3尉・安達は、自らの小隊を率い、静かに忍び寄ってくるロシア軍と対峙する。そして、ついに戦端が開かれた—。

#### ⑤『旅する練習』

乗代 雄介【著】(講談社)



中学入学を前にしたサッカー少女と、小説家の叔父。

2020年、コロナ禍で予定がなくなった春休み、ふたりは利根川沿いに、徒歩で千葉の我孫子から鹿島アントラーズの本拠地を目指す旅に出る。

### ☆☆「芥川賞」とは??☆☆



文藝春秋の創業者・菊池寛(1888~1948。代表作「恩讐の彼方に」)が、友人である芥川龍之介(1892~1927。代表作「羅生門」など)の名を記念し、1935年に制定。雑誌(同人雑誌も含む)に発表された、新進作家による純文学の中・短編作品から選定。



《直木賞候補作》

①『汚れた手をそこで拭かない』

芦沢 央【著】(文藝春秋)



平穩に夏休みを終えたい小学校教諭、認知症の妻を傷つけない夫。元不倫相手を見返したい料理研究家…始まりは、ささやかな秘密。気づかぬうちにじわりじわりと「お金」の魔の手はやってきて、見逃したはずの小さな綻びは、彼ら自身を絡め取り、蝕んでいく。

②『八月の銀の雪』

伊与原 新【著】(新潮社)



科学の揺るぎない真実が、傷ついた心に希望の灯りをともす全5篇。  
不愛想で手際が悪い。コンビニのベトナム人店員グエンが、就活連敗中の理系大学生、堀川に見せた真の姿とは(「八月の銀の雪」)。

③『オルタネート』

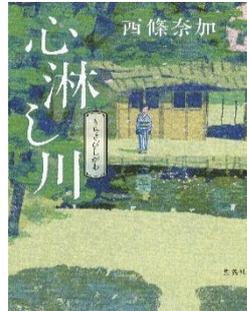
加藤 シゲアキ【著】(新潮社)



高校生限定のマッチングアプリ「オルタネート」が必須のウェブサービスとなった現代。東京にある円明学園高校で、3人の若者の運命が交錯する。出会いと別れ、葛藤と挫折、そして苦悩の末、やがて訪れる「運命」の日。3人の未来が、人生が、加速する一。

④『心淋し川』

西條 奈加【著】(集英社)



江戸の片隅、「心淋し川」という小さなどぶ川沿いに建ち並ぶ長屋。住人たちは人生という川のどん詰まりでもがいていた。懸命に生を紡ぐ人々の切なる願いが胸に沁みる感動連作!

⑤『インビジブル』

坂上 泉【著】(文藝春秋)



昭和29年、大阪城付近で政治家秘書が頭に麻袋を巻かれた刺殺体となって見つかる。大阪市警視庁が騒然とするなか、若手の新城は初めての殺人事件捜査に意気込むが、上層部の思惑により国警から派遣された警察官僚の守屋と組むはめに。帝大卒のエリートなのに聞き込みもできない守屋に、中卒叩き上げの新城は厄介者を押し付けられたと立ちを募らせる一。

⑥『アンダードッグス』

長浦 京【著】(KADOKAWA)



1996年末、元官僚の証券マン・古葉慶太は、顧客の大富豪・マッシュモからある計画を託される。それは、中国返還直前の香港から密かに運び出される国家機密を強奪せよというものだった。かつて政争に巻き込まれ失脚した古葉は、逆襲の機会とばかりに香港へ飛ぶ。だが、彼を待っていたのは、国籍もバラバラな「負け犬」仲間たちと、計画を狙う米英露中、各国情報機関だった一。

☆☆「直木賞」とは??☆☆



文藝春秋の創業者・菊池寛が、友人である直木三十五(1891~1934。代表作「南国太平記」)の名を記念し、1935年に制定。新進・中堅作家によるエンターテインメント作品の単行本(長編もしくは短編集)から選定。

